

第3章 2021年透析導入患者の動態

1. 臨床背景

2021年の患者調査票において、年齢と性別の記載が確認された導入患者数は37,961人であった。男性は26,321人、女性は11,640人で、導入患者の平均年齢は全体が71.09歳、男性が70.38歳、女性が72.71歳であった（図16、補足表17）。導入患者の平均年齢も慢性透析患者と同様、年々高齢化している（図17、補足表18）。最も割合が高い年齢層は、男性が70～74歳で、女性は80～84歳であった。

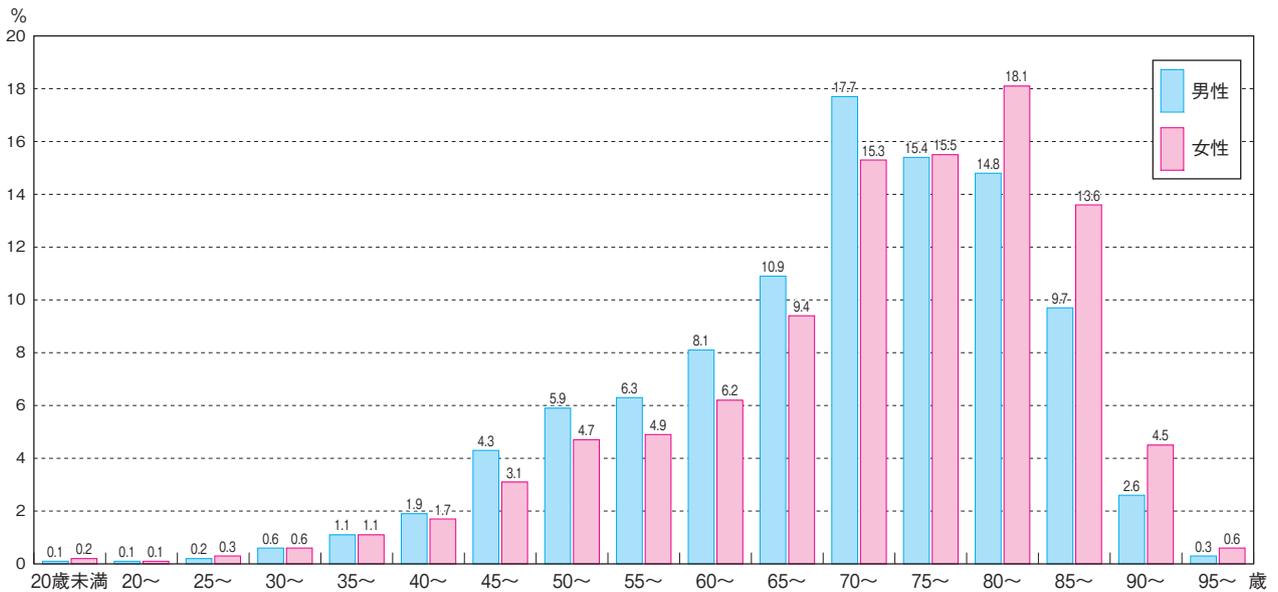


図16 導入患者 年齢と性別, 2021

(患者調査による集計)

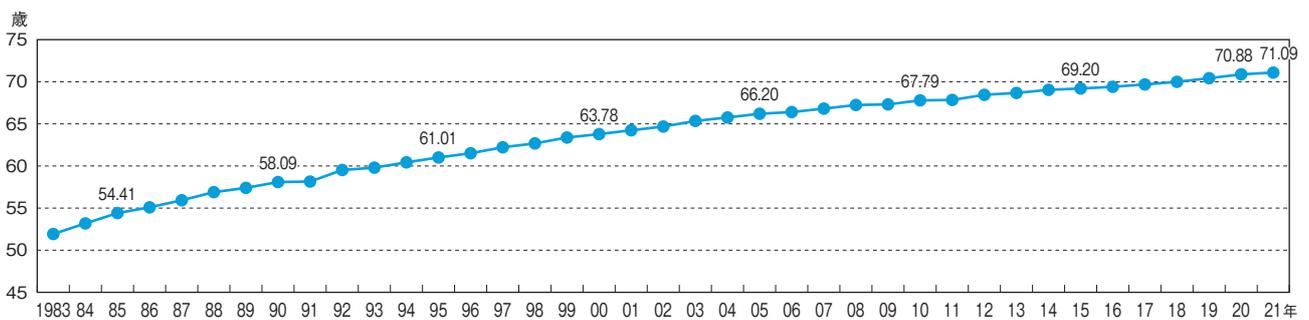


図17 導入患者 平均年齢の推移, 1983-2021

(患者調査による集計)

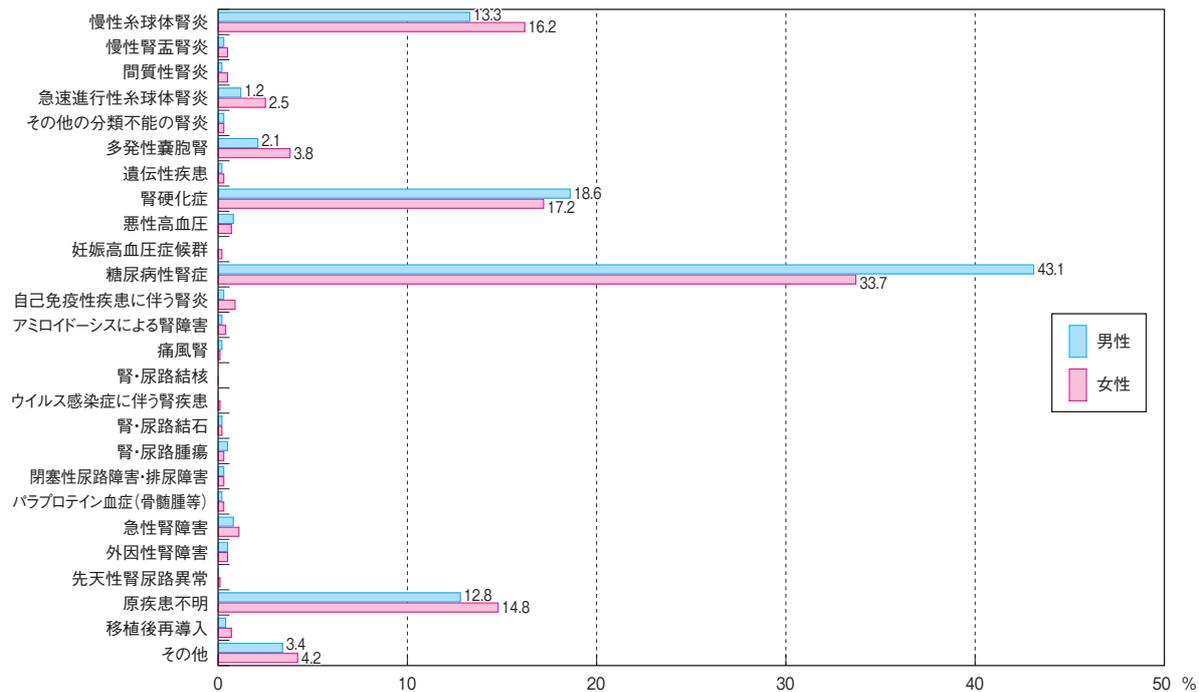


図 18 導入患者 原疾患と性別，2021

(患者調査による集計)

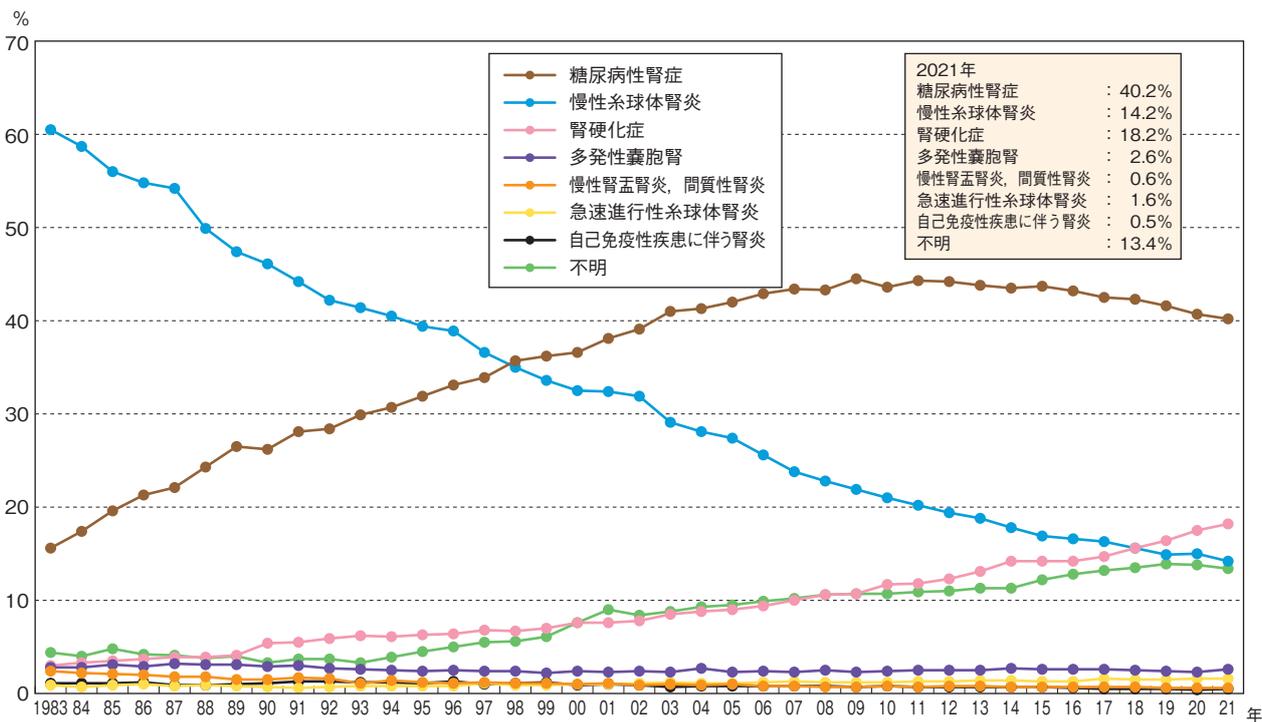


図 19 導入患者 原疾患割合の推移，1983-2021

(患者調査による集計)

2021年導入患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症で40.2%，次いで腎硬化症の18.2%，慢性糸球体腎炎の14.2%であり，2019年に腎硬化症が慢性糸球体腎炎に代わって第2位となって以降も，腎硬化症の持続的な増加が目立つ。原疾患不明は13.4%であった(図18，補足表19)。導入患者の原疾患は，1998年に慢性糸球体腎炎に代わって糖尿病性腎症が原疾患の第1位になって以来，一貫して増加していたが，近年は慢性糸球体腎炎と同様に減少傾向である(図19，補足表20)。

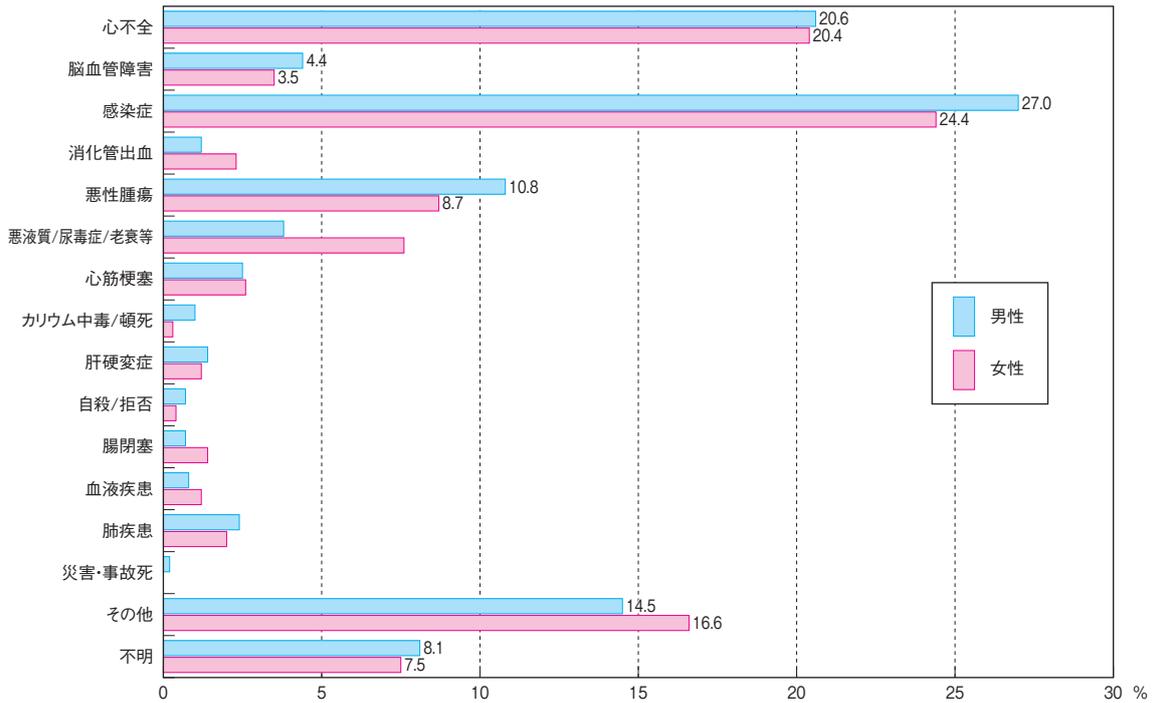


図 20 導入患者 死亡原因と性別, 2021

(患者調査による集計)

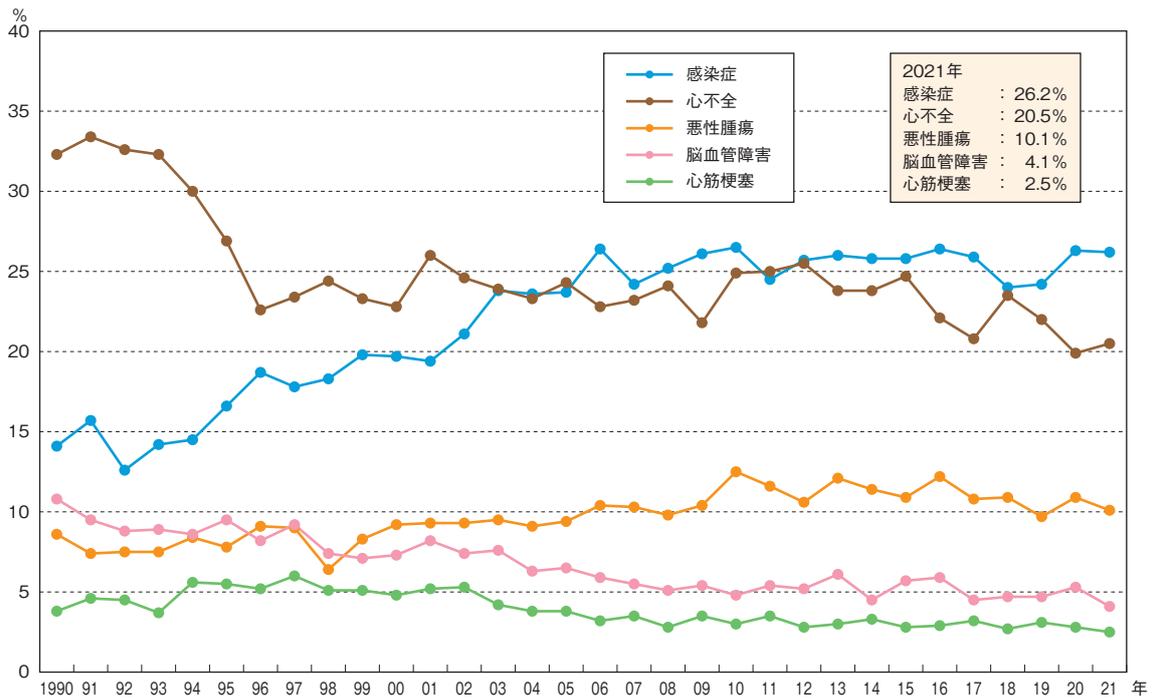


図 21 導入患者 死亡原因割合の推移, 1990-2021

(患者調査による集計)

2. 死亡原因

2021年導入患者の導入年内の死亡原因は、全体では感染症が26.2%と最も多く、次いで心不全が20.5%、悪性腫瘍が10.1%、悪液質/尿毒症/老衰等が5.0%、脳血管障害が4.1%、心筋梗塞が2.5%、肺疾患が2.3%であった。心血管死の合計は27.2%に漸減した（図20、補足表21）。透析導入年内の死亡原因の推移をみると、1990年代は心不全が最も多かったが、感染症が徐々に増加し、2006年頃から感染症が最も多い死因となった。悪性腫瘍による死亡の割合は、2006年以降10%前後を推移している。脳血管障害による死亡は、2006年以降5%前後を推移している（図21、補足表22）。